

作成番号:0159

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

号数:2024-159

内容:急性広範囲脳梗塞において、血管内血栓除去術は有効性か？

出典:Endovascular Thrombectomy for Large Ischemic Stroke Across Ischemic Injury and Penumbra Profiles.

JAMA. 2024 Feb 07; pii: e240572.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38324414/>

広範囲脳梗塞患者の治療において、内科的治療のみと比較して血管内血栓除去術の併用は有効か、血管内血栓除去術の有効性が虚血傷害の程度によって異なるかどうか、米国・ケース・ウェスタン・リザーブ大学の研究者らが、非盲検無作為化第 III 相試験「SELECT2 試験」の探索的解析の結果を JAMA 誌オンライン版 2024 年 2 月 7 日号で報告した。

2019 年 10 月～2022 年 9 月に、米国、カナダ、欧州、オーストラリア、ニュージーランドの 31 施設で、内頸動脈または中大脳動脈 M1 セグメントの閉塞による急性脳梗塞を呈し、非造影 CT で ASPECTS スコア 3～5、または CT 灌流画像あるいは MRI 拡散強調画で虚血コア 50mL 以上の成人患者 352 例を、血管内血栓除去術＋内科的治療併用群または内科的治療単独群に、1 対 1 の割合に無作為に割り付けた。主要アウトカムは、90 日時点の機能的アウトカム(修正 Rankin 尺度 [mRS]スコア:0[無症状]～6[死亡])で、補正後一般化オッズ比(aGenOR、>1 でより良好なアウトカムを表す)で評価した。無作為化された患者 352 例のうち探索的解析対象集団は 336 例(年齢中央値:67 歳、女性:139 例[41.4%])で、このうち 168 例(50%)が血管内血栓除去術併用群に割り付けられた。ASPECTS スコア 3～5 と判定された 277 例において、90 日時点の機能的アウトカムは、血管内血栓除去術併用群が内科的治療群より有意に良好であった。内科的治療に対する血栓除去術併用の aGenOR は、ASPECTS スコア 3 の患者で 1.71 (95%信頼区間[CI]:1.04～2.81)、4 の患者で 2.01 (1.19～3.40)、5 の患者で 1.85 (1.22～2.79)であった。CT 灌流/MRI による虚血コア体積別では、aGenOR は 70mL 以上で 1.63 (95%CI:1.23～2.16)、100mL 以上で 1.41 (0.99～2.02)、150mL 以上で 1.47 (0.84～2.56)であった。

内科的治療のみと比較して血管内血栓除去術の併用は、幅広い虚血コア体積にわたって機能的アウトカムを改善することが示された。

